

---

## ■ミカムから辿る靴産業の「今」と2026年春夏ファッショントレンド■

### 100回目を迎えたミカム、厳しい状況の中で次のディケードへ

靴ジャーナリスト 大谷 知子

---

#### ●ミカム100回に向けた歩み

2026年春夏シーズンに向けたミカムは9月7～9日の3日間、ミラノのロー見本市会場で行われた。そしてこの開催は、特別。ミカムは、本開催で100回目を迎えた。

この機会にミカムの歴史に触れておこう。

ミカムの歴史は、ヴィジェヴァノで始まった。ヴィジェヴァノは、ミラノから列車で約1時間。ロンバルディア州（州都はミラノ）の主要都市の一つだ。

イタリアの靴生産は、州別に見ると、マルケ、トスカーナやヴェネト州が上位を占めるが、かつてはロンバルディア州。その中心がヴィジェヴァノであり、特に高級靴を得意としていた。現在、同地には靴博物館があるが、それが靴生産を誇っていたことを裏付けている。

ミカムのルーツは、同地で1931年に誕生した「Mostra Mercato delle Calzature（靴市場見本市）」だ。同見本市は、経済の好調と靴のファッション化によって全国規模に発展した。しかし、戦争により中断。終戦後の1948年に再開したが、同時期にボローニャで立ち上がった「Moda Calzatura（モーダカルザトゥーラ＝シューズファッション）」という見本市と合流。これが靴ファッションを発表する場として拡大し、当初は50社に過ぎなかった出展者が、1966年には400社に。靴メーカーだけでなく製靴

機械や皮革製品なども出展するようになった。そこで見本市名を変更し「Presentazione Nazionale della Moda e della Calzatura, Salone del Cuoio, Macchinari Pelletteria, Accessori e Modellisti（靴ファッション国内展示会、及び皮革、機械、皮革製品、アクセサリー、モデリスト展）」とした。

さらに1968年、ロンバルディア州の起業家グループが、同展を「Mostra Internazionale Calzature Concerie Affini e Macchinari（国際靴・皮革関連製品・機械展示会）」の頭文字を取って「MICAM」としてミラノで開催した。

ここに、「MICAM＝ミカム」という名称が誕生した。

そして1974年、現在のミカムの主催者であるイタリア靴メーカー協会(Assocalzaturifici)の前身であるイタリア靴工業会(A.N.C.I. = Associazione Nazionale Calzaturifici Italiani)が、前記ミカムを管轄下に置き、同工業会主催とした。つまりは現在のミカムがスタートを切った。

当初は年1回開催だったり、また開催地が春はボローニャ、秋はミラノなど小さな変化を経つつ、2025年9月、100回目の開催を迎えたのである。

以上は、100回に向けて発行されたニューズレター「MICAM MAG」掲載記事をまとめたものだ。



「ミカム100」の歴史展示

●ジョイントはミペルのみ。2万人が来場では、100回目のミカムは、どんなものだったか。

大きな変化と言っているのが、開催形式の変更だ。

コロナ禍以降、バッグの「ミペル」、アパレルの「The One Milano」、アクセサリーの「Milano Fashion & Jewels」との合同展の形で開催してきた。それが、今回は、ミペルのみとのジョイント展となったのだ。

また、次項で言及する輸出統計は、これまで必ずコロナ禍前の2019年実績との比較が掲載されていた。2025年上半期は、それがなくなった。「イタリア2025年1～5月輸出」（5ページ）の表には、対2019年同期比が入っているが、これは、筆者が独自で加えたものだ。

このことについてミカムのプレス資料は、言及していない。深読みかもしれないが、これまでコロナ禍前に戻ることを目標としてきた。今回を機に、現状を新しいフェーズのスタートとし前に進むという意思表示なのではないだろうか。

その現状は、まず開催規模。出展は、ミペルと合わせて1000ブランド以上。ミカム単体では、870ブランド。内訳は、イタリア401、イタリア以外の世界から469と公表した。

前回、前々回（前年同期）と比較してみ

ると、4展示会合計で前回は1758ブランド。前年同期は未公表。4から2展示会ジョイントになったので、減少は当然であり、今回の1000ブランドは順当と言えそう。ただ、詳細数字を公表していないので、実際はジョイント数の減少以上に減ったという予測も成り立つ。

そしてミカム単体の出展数は、前回は、イタリア415、世界438で853ブランド。前年同期は、同じく475、457の932ブランド。前年同期よりは減少したが、前回より増えている。

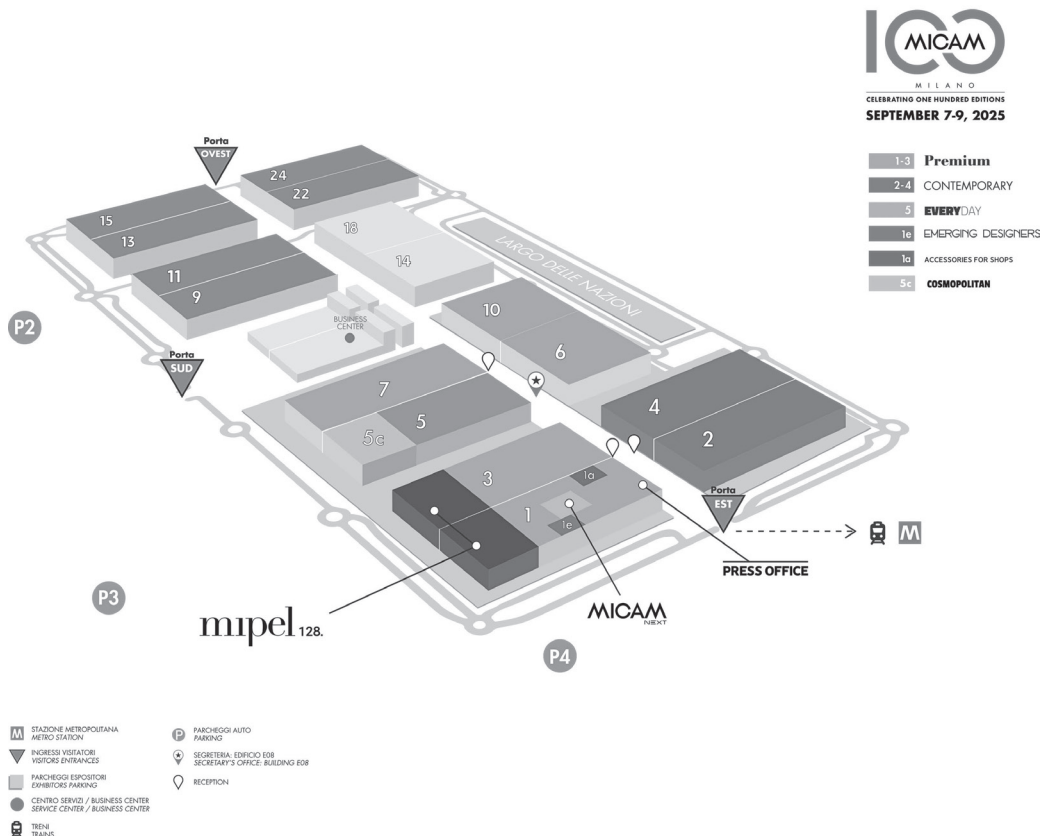
来場者は、126ヵ国から2万362人、海外からの来場者のシェアは57%と発表した。特に目立った来場国は、スペイン、ドイツ、フランス、ポーランド、中国、日本、それにナイジェリアと南アフリカとした。

前回は、4万499人、海外比率は45%。前年同期は、4万950人、海外比率は前回と同じ45%。4から2展示会のジョイントとなったので、来場者数半減は、ジョイント数が2つになったことによるものだ。海外比率は、12%も上昇した。素直に受け取れば、海外の注目度が上昇と解釈できるが、一気に10%以上は増え過ぎの感もあり、別の要因が絡んでいるかもしれない。

大規模な国際靴見本市として唯一の存在となったミカムが、次の100回に向けてどのように歩むかは、靴産業、及び靴市場の



年代ごとに写真パネルで構成した歴史展示



ミカム100 会場図

映し鏡でもある。

過去100回の歩みは、発展の歴史だったが、その様子は「100 STEPS INTO THE FUTURE」と題され年代ごとに区分された写真パネルで紹介された。

付け加えると、革を中心とした靴・皮革製品素材の見本市リネアペレは、これまで同じ会場でミカムの最終日に開幕していたが、今回はミカム閉幕から2週間以上後の9月23～25日に行われた。出展者1150に対して、109ヵ国から2万1433人が来場。この中には重要なサプライチェーンを代表する7000社以上が含まれるとした。

### ●トランプ関税による影響はまだ不透明

イタリア靴メーカー協会はミカムに先立ち、イタリア靴産業の2025年上半期の状況を公表した。

一口に言うと、イタリア靴産業の2025年上半期は、第2四半期には減少幅が縮小したものの、依然として縮小傾向にある。

イタリアは生産の80%以上を輸出しているが、今年1～5月の輸出の状況は、48億8618万ユーロ、8451万5000足（表1参照）。前年同期比は、数量は3.2%増加したが、金額は2.7%減少した。

相手国別では、上位5ヵ国はフランス、米国、ドイツ、スイス、スペインの順。このうち最も好調なのが、ドイツ。金額12.4%、数量15.8%のそれぞれ増加を示した。スペインも金額0.8%、数量3.6%のそれぞれ増加と堅調だ。米国は2位を維持し、金額2.0%増、数量7.7%減だったが、トランプ関税による影響がまだ不透明で、今後が懸念されるとしている。

好調なのは、UAE。金額26.6%、数量

【表1】 イタリア2025年1～5月輸出

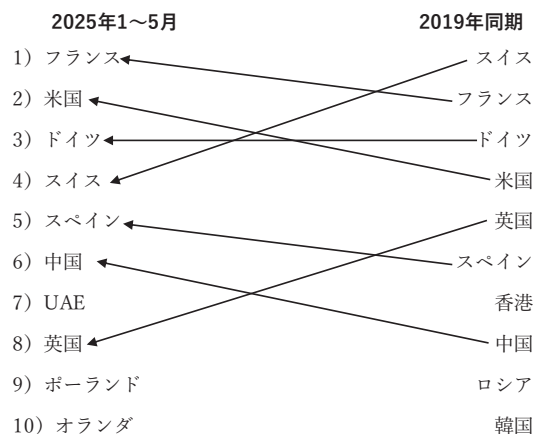
輸出国	2025年1～5月			対2024年同期比			対2019年同期比		
	金額	数量	平均単価	金額	数量	平均単価	金額	数量	平均単価
	100万€	1000足	€	%	%	%	%	%	%
1) フランス	937.95	16,249	83.46	-7.0	-2.7	-4.0	+41.0	-1.7	+100.1
2) 米国	608.40	6,211	97.96	+2.0	-7.7	+10.6	+50.6	-12.6	+71.3
3) ドイツ	538.92	13,953	38.62	+12.4	+15.8	-3.0	+28.2	-1.8	+30.1
4) スイス	278.32	2,788	99.83	-17.3	-13.9	-3.9	-61.8	-63.3	-4.1
5) スペイン	234.69	5,804	40.44	+0.8	+3.6	-2.7	+55.1	+10.2	+40.8
6) 中国	213.8	1,193	179.18	-24.6	-21.6	-3.7	+66.8	+26.8	+31.5
7) UAE	171.74	1,030	166.68	+26.6	+28.5	-1.5	+233.1	+72.2	+93.4
8) 英国	163.35	2,762	59.14	-2.8	+3.6	-6.1	-39.5	-54.9	+34.0
9) ポーランド	153.38	5,464	28.07	+4.8	+9.3	-4.1	+168.4	+172.4	-1.5
10) オランダ	149.28	2,514	59.38	-14.6	+0.6	-15.1	+66.6	+20.1	+38.8
11) 香港	114.28	577	197.9	-24.2	-14.5	-11.3	-22.4	-39.1	+27.1
12) ベルギー	97.05	2,108	46.03	+8.0	+15.7	-6.6	+11.1	-9.5	+22.7
13) 日本	90.56	532	170.27	-10.4	-30.2	+28.4	+6.5	-49.5	+111.0
14) 韓国	81.01	457	177.43	-24.0	-21.2	-3.5	-17.7	-47.3	+119.9
15) トルコ	79.26	936	84.69	+13.5	+5.9	+7.2	-	-	-
16) ロシア	79.04	1,230	64.27	-14.4	-18.1	+4.5	-31.5	-39.3	+12.9
...									
20) カナダ	46.76	712	65.66	-18.2	-14.6	-4.3	+31.1	-25.3	+38.0
...									
39) ウクライナ	13.35	149	89.74	-3.8	-18.2	+17.6	-	-	-
輸出合計	4,886.18	84,515	57.82	-2.7	+3.2	-5.7	+15.9	-8.0	-38.7

データ出所：Confindustria Moda Research Centre（イタリア統計局データより算出）

※対2019年同期比は、筆者保存の過去データを基に筆者が算出

28.5%のそれぞれ増加と、大幅な伸びを示している。経済が好調というポーランドは、金額4.8%増、数量は9.3%増。数量が2ケタに近づく伸びを示しており、経済の好調さを反映していると言えよう。

対2019年同期比は、筆者が付け加えたことは前記したが、2025年と2019年の上位10カ国を書き出してみた。



2025年にベスト10入りしたのは、UAE、ポーランド、オランダの3カ国。逆にベスト10圏外に退いたのは、香港、ロシア、韓国。ロシアはウクライナとの紛争が要因であることは明らか。ベスト10落ちした残り2カ国、香港、韓国はいずれも極東。香港は、中国の貿易ハブという役割を失いつつあることが影響していると思われる。アジアの主要市場である日本は、2019年、2025年共に13位だが、対2019年同期比の数量は49.5%減と半減している。中国は順位を上げているが、極東市場の不調は気になるところだ。

これまでイタリアの輸入の状況には触れたことはなかったが、気になる動きがある。

輸入先は、中国が断トツ1位であることに変わらないが、ベトナム、インドネシア、カンボジア、ミャンマーのアジア諸国が、



【表2】日本2025年上半期靴・履物輸入

	HSコード	2025年1～6月		伸び率			
		数量(千足)	金額(百万円)	対2024年同期		対2019年同期	
				数量	金額	数量	金額
靴・履物全体	6401	8,824	7,668	+7.9%	+7.4%	-7.8%	+17.0%
	6402	92,341	125,772	+6.5%	+16.6%	-12.1%	+44.7%
	6403	19,527	100,818	+6.1%	+7.0%	+14.9%	+56.5%
	6404	180,166	159,778	+8.0%	+23.5%	-2.5%	+31.0%
	6405	25,101	6,504	-10.1%	-10.5%	+22.3%	+28.9%
	合計	325,960	400,540	+5.8%	+15.8%	-3.3%	+40.6%
イタリア	6401	1	20	-26.9%	-20.9%	-41.0%	+381.0%
	6402	51	1,212	-50.2%	-5.8%	-72.8%	+7.9%
	6403	539	23,258	-18.7%	-7.9%	-37.3%	+55.0%
	6404	137	6,500	-7.4%	+0.3%	-34.1%	+37.7%
	6405	5	176	+4.0%	+25.0%	-54.0%	-5.9%
	合計	733	31,166	-20.3%	-6.1%	-42.2%	+48.1%
中国	6401	8,524	7,145	+7.3%	+7.5%	-6.2%	+19.0%
	6402	68,203	65,017	+3.5%	+8.5%	-17.6%	+22.0%
	6403	2,843	11,271	+8.4%	+13.4%	-17.2%	+13.9%
	6404	138,287	67,161	+5.7%	+12.8%	-5.4%	+8.1%
	6405	23,216	4,881	-10.0%	-13.5%	+32.4%	+34.1%
	合計	241,073	155,475	+3.4%	+9.7%	-6.9%	+15.2%

【注】HSコード＝6401:防水性の履物 6402:甲と底がゴムもしくはプラスチック製 6403:甲が革製 6404:甲がテキスタイル製 6405:その他の履物  
※財務省「貿易統計」を筆者が集計

倍増、あるいはそれに近い伸びを見せていることだ。特にベトナムの数量は189.1%増と3倍に近い増加となっている。世界の工場としての中国の役割に変化が見えているのは明らかであり、次の調達先を模索する動きが活発化しているという見方もできる。

日本の2025年上半期靴・履物輸入も集計してみた（表2参照）。

全体では、2024年同期を数量、金額共に上回り、改善が見られる。しかし2019年同期比は、数量3.3%減と、わずかながら2019年を下回り完全回復には至っていない。

相手国別では、イタリアと中国を集計したが、対中国は、数量、金額共に2024年を上回ったが、2019年は数量が未だ6.9%減だ。

イタリアは、対2019年同期比の金額は、円安によって48.1%増となっているが、数量は42.2%減。対2024年同期比は、数量、金額共にマイナス。また、イタリアにとって主力であるべき革靴（HSコード6403）も数量、金額共に落としており、革靴市場

は依然、厳しい状況であることをうかがわせる。

### ■2026年春夏トレンド■

では、2026年春夏の靴ファッションは、どのような傾向になるのだろうか。

ミカムが来場者に提供している「BUYER GUIDE」をベースにまとめてみたい。

「BUYER GUIDE」は、「Livetrend」というファッショントレンドを分析するプラットフォームとのパートナーシップで作成。マーケット動向、インスタグラム、インターネットの検索データ、それにさまざまなブランドのファッションショーから得たデータを加え、独自のアルゴリズムで解析。また、今回からAIのサジェスションも加え、消費者の興味を引きつけるトレンドテーマやアイテムを導き出し、さらにヒール物、フラット、サンダルなど靴種別に有力なスタイルを挙げている。

導き出されたのは、次に挙げる4テーマだ。

2026年春夏ファッショントレンド  
(ミカム「BUYER GUIDE」より)

古風な  
シュール  
リアリズム

穏やかなる  
もの

月光浴

気まぐれ  
グランジ

RETRO SURREALISM

SERENE ELEMENTS

MOONBATH

WHIMSICAL GRUNGE



永遠のシック  
大胆なプレッピー

無重力  
共生

古代／原始  
本物の探求者

破壊的な夢  
若者の反乱



## 【TREND 1】RETRO SURREALISM

### レトロシュールリアリズム

意図しているのは、リゾート・ファッション。そこに2026年らしさを加えるのが、シュールな感覚。つまり、現実離れた奇抜な感覚だ。具体的には、大胆さと柔らかさや優しさ、過去と未来、また懐かしさを感じさせるレトロとエッジの効いたグラフィックの融合だ。

色は、赤、オレンジ、パステル系のグリーン、ピンク、ブルー、それに青味を帯びた

パープルなど。

素材は、ギンガムチェックなどの幾何学形の柄物テキスタイル、サテン、キャンバス地、革はエナメルを筆頭とした光沢のあるもの。

ディテール・デザインは、Tストラップ、小さなリボン、それにピープトウ、トップラインのVカット。

## 【TREND 2】SERENE ELEMENTS

### 穏やかなるもの

自然界にインスピレーションを求めたト

レンド。ただし単にナチュラルではなく、革新的な要素や詩的な感覚を盛り込むことがポイント。キーワードに無重力を挙げており、軽さや浮遊感の表現も重要。

色は、スモーキーなピンク、ベージュ、グレー、ブルー、パープル系など。

素材は、透け感のあるジェル素材、非常に細かいメッシュ素材、紙のような表面感を持った革やテキスタイル、それにミニマルな意匠を持ったハ虫類革など。

ディテール・デザインは、トップラインの角張ったカット、左右非対称デザイン、ソックスを履いているような効果の演出。

### 【TREND 3】MOONBATH

#### 月光浴

月の光に照らされた大地、焼け焦げたような熱帯の風景、またプリミティブな感覚もイメージされている。全体として焦げ茶のイメージであり、クラフツマンによる手仕事も重視される。エスニックの分類に入るトレンドと言える。

色は、茶色味の強いオレンジ、群青色のようなブルー、レーズンのようなパープルなど。

素材は、毛足のあるポニー、柔らかいスエード、革メッシュ、コットン製のネット素材など。

ディテール・デザインは、タッセルやフリンジ、手仕事であることが強調されたかがり縫い、金属製アクセサリーのストラップへのあしらい。

### 【TREND 4】WHIMSICAL GRUNGE

#### 気まぐれグランジ

1990年代のグランジに通じる反抗的とも言えるストリートファッションに、手づくりを感じさせる金具のあしらいやスタッズ使いなどを加えた自由で個性的な感覚が意

図されている。

色は、黒味を加えたパープルや茶、赤に近いピンク。パステル系では、深みのあるもの。

素材は、ヘビやワニなどのエキゾチックレザー、いたずら書きのような意匠デザインのテキスタイルなど。またクラック（ヒビ割れ）加工の革、使い古した加工を施したのも。

ディテール・デザインは、レース使い、チャームやジュエリーの過剰なあしらい、コルセットのようなレースアップ、スタッズ使い。

### 【注目スタイル】

#### 〈レディス〉

クラシックなソフト・スニーカー。

木底のミュール、編み上げサンダル、バレリーナのようなミュール、トンゲ。

Tストラップのフラットシューズ、編み上げデザインを施したバレリーナ、モカシン、スニーカーのようなバレリーナ。プラットフォーム・サンダル、中寸キティンヒール（セットインの一種）のミュール、Tストラップやメリージェーン、スリングバック・サンダル。

高寸キティンヒールのトンゲ、ミニマルなストラップデザインのサンダル、鳥かごのようなストラップデザインの高寸サンダル。

#### 〈メンズ〉

クロッグ、トンゲ、グルカサンダル。

ボートシューズ、モカシン、スリッポン・スニーカー。

ペニーローファー、ラウンドトゥの外羽根、エンジニアブーツ。

101回目となる2026年秋冬に向けたミカムは、2026年2月22～24日に開催される。